

社員
Interview

“信託の力”を支える現場のPurpose

Interview | 05 | 藤澤 樹一郎

三井住友信託銀行 法人アセットマネジメント企画推進部

資産運用ビジネスを通じ社会課題を解決するパートナーでありたい

私は、主に金融機関や一般法人に対する、私募投資信託を中心とした商品企画、マーケティング企画・営業推進に取り組んでいます。最近では、オープンマーケットにおける運用難の継続に対し、運用対象地域のグローバル化に加えて、デリバティブの活用、プライベートアセットといった対象商品の拡張が図られていますが、三井住友信託銀行はグループの運用会社だけでなく外部運用機関も活用し多種多様な商品を提供しています。

当グループの強みは、広範囲にわたるお客さまの多様な資産に関するニーズに対して、専門的な解決策をグループ全体、ワンストップで提供できることです。商品提供にあたっては、お客さまの課題やニーズを徹底的に議論した上で、一緒に運用戦略を創り上げることをポリシーとしています。特に



当グループは、世界の潮流であるESGやSDGsを意識した運用において先行しており、これから資産運用を通じた社会課題解決に向けた取り組みを投資家と共に実践していきたいと考えています。

当グループならではの強みを活かし、経済を支える金融機関や法人をサポートすることは、パーパスが示す「お客さまや社会の豊かな未来」の実現に合致した取り組みと言えます。だからこそ、商品売りに行くのではなく、お客さまに寄り添い、課題解決となる商品と一緒に具現化する長期的なパートナーでありたいと思っています。

Interview | 06 | 千葉 直史

Nikko Asset Management Americas Inc.
Product Development Department



ファンドを通じて未来をつくる

私は、Nikko Asset Management Americas Inc.でテーマ型株式ファンドの開発など、日本の個人や金融機関向け投資信託の商品開発を担当しています。一過性ブームなどと言われることもあるテーマ型投資信託ですが、その開発にあたっては、ブームを追いかけるマーケットイン発想ではなく、自分たちが心からつくりたいものをつくるというプロダクトアウト発想を心掛けています。具体的には、長期にわたって投資する価値あるテーマか、これから10年-20年、場合によってはそれ以上続く巨大な成長機会を捉えているか、深い社会変化や構造変化をきちんと掴んでいるか。そうした問いを自分自身に投げかけ、その観点を大切にしながら、

商品組成に取り組んでいます。そのために大切なのが、専門家へ直接コンタクトして話を聞くことや自らがユーザーとして先進的なサービスを実際に試してみるなどといったボトムアップの調査です。お客さまの大切な資金が、私たちが組成したファンドの投資対象企業に投じられ、その企業の成長

が社会をより豊かにし、そこで創出された価値がリターンとしてお客さまに戻ってくるというダイナミックな資金循環の流れをつくり出す、これからもそういった商品を開発していきたいです。

Interview | 07 | 陳 建宏

三井住友信託銀行 年金運用部



持続的な社会の実現に貢献する投資の普及を促進

産休・育休からの職場復帰を経て、現在私は年金運用部で年金基金向け商品企画のほか、資産運用セミナーなどの企画や運営を担当しています。信託はもともと社会貢献を前提としていることもあり、当社では、比較的早い時期からESGをセミナーテーマとして取り上げてきました。最近のセミナーでは、経済的リターンを追求すると同時に、環境などへのポジティブなインパクト実現に貢献する企業に投資する「インパクト投資」を取り上げました。お客さまから想定以上の反応もいただき、資産運用においてリスクとリターンの二つの軸に加え、ESG/インパクトの第3の軸を取り入れることにより、資金の流れも大きく変わっていくと考えています。私たちはこれからもこの潮流をしっかりとサポートし、老後のための年金資金の運用という観点だけでなく、持続的な社会の実現にも貢献していきたいと考えています。

Interview | 08 | 原 恭子

三井住友トラスト・アセットマネジメント スチュワードシップ推進部



ダイバーシティで企業価値を高める

中途で入社した三井住友トラスト・アセットマネジメントでは、運用会社のアナリストとして20年近く企業に接してきた経験を活かし、スチュワードシップ活動に取り組んでいます。アナリストの時から、多様な人材を活かし、さまざまな発想を取り入れるダイバーシティのある企業には、イノベーションを生み出す活力があると感じていました。

当社は、企業との対話を重視し、議決権行使やESG分析にも積極的に取り組んでいます。ESGの分野では、気候変動などの環境問題に加え、ダイバーシティにも注力しており、2030年を目処にTOPIX100の女性役員割合を30%にすることを目標とする「30%Club Japan」のインベスター・グループの立ち上げに参画しました。私は現在、対話を通じ、そうした多様性のある企業を増やすことに取り組んでいます。それが、ひいては活力ある社会、豊かな未来につながると考えています。